

第8回JCHO玉造病院地域医療連絡協議会議事

日時 : 平成31年3月7日(木) 17時00分～18時15分

場所 : JCHO玉造病院 1階会議室

外部委員 : 松江医師会 泉会長、松江赤十字病院 大居院長
松江保健所 村下所長、松江市健康部 小塚部長
玉湯町自治会連合会 勝部会長

病院側委員 : 池田院長、芦沢副院長、川合統括診療部長、坪内看護部長、
中野事務部長

○院長挨拶

本日は年度末のお忙しい中、第8回玉造病院地域医療連絡協議会にご出席いただきありがとうございます。日頃より当院の運営にご助力いただきありがとうございます。

今回は、定例議題のほかにトピックスとして平成31年より始めました「骨粗鬆症健診」についての紹介等を予定しております。委員の皆様には最後まで忌憚ないご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○外部委員および病院側委員の紹介

※外部委員：事務部長より紹介。

松江医師会会長 泉 明夫 様

松江赤十字病院院長 大居 慎治 様

松江保健所所長 村下 伯 様

松江市健康部部長 小塚 豊 様

玉湯町自治会連合会会長 勝部 廣三 様

※内部委員：事務部長より紹介。

○議事

※議事進行は中野事務部長

議事①「病院概要」について 池田院長より説明

議事②「平成31年度の事業運営方針」について 中野部長より説明

議事③「平成30年度の事業運営状況」について 中野部長より説明

(質疑応答)

- 中野部長： ジェネリック医薬品に関して、何かご意見はあるでしょうか？
- 大居委員： 当院でも、患者さんにジェネリック医薬品を選択していただけるようにしている。物によっては先発品の方がよい場合もある。分量は同じでも、体に吸収するスピードの違いによって、患者が感じる効果に違いが出ることもある
- 泉委員： 当院では薬局にて、患者が希望にあわせて決めている。
全体としては9割り弱の方がジェネリックを選択している。
- 村下委員： 国民健康保険では全国平均より高い状況で推移している。ジェネリックに対する抵抗、不安は少ないようだ。住民に理解が浸透していると思う。
- 小塚委員： 効果が同じであれば、より安価な物を使って貰った方が健全な運営に資するのではないか。
- 勝部会長： 専門的な知識がないので、先生の言われるとおりにしている。ジェネリックを飲んでいるが、特に調子の悪いということもない。特に意識はしていない。
- 中野部長： 今後の病院の運営に加味させていただきます。
-
- 中野部長： 入院中の食事の満足度を上げるためのコツは？
- 大居委員： おいしいお米を選ぶと満足度は上がる。
薄味に慣れてくると普通の食事は辛く感じるもの。栄養管理された病院食を本来あるべき食事として患者にアピールしてはどうか
- 小塚委員： 入院の経験があるが、お米がぱさぱさしていて美味しくなかった。
年配の方が多いので、お米が美味しいという魅力は強みになると思う。
味付けに関しては、薄味だとは感じなかった。魚の骨が完璧に取り除かれていて食べやすかった。
- 中野部長： 参考にさせていただきます。

議事④「骨粗しょう症検診」について

吉田医師より説明

(質疑応答)

- 勝部委員： 文化祭で骨粗しょう症の簡単な検査を行っているが、例年、若い世代にも非常に人気がある。関心を持っている方が大勢いるので、検診を宣伝する必要があると思う。

村下委員： 病院での検診について、所要時間はどの位か？

須田主任放射線技師： 腰椎、大腿骨の二箇所の測定、着替えまでで10分程度。
(オブザーバー) その後、結果の説明等をすると20分～30分程度です。

村下委員： 所要時間が30分程度ということであれば、受けやすいと思う
早期発見することによる効果は？

吉田医師： 境界型の場合は生活習慣を整えることで対応できるが、ハイリスクの場合にはそのままにしておくと骨折につながる。そうになると薬物治療が必要になる。骨折抑制効果のある薬はたくさんある。
骨粗しょう症は痛くも痒くもないので、自分のリスクを知らないまま生活した結果、骨折をして寝たきりの状態になってしまうケースがあるので検診を受けることで自分の状態を知ることが大切です。

村下委員： 行政としても要介護状態をできるだけ短く、あるいは要介護状態にならないようにするための介護予防が重要だと思う。有益な提言でした。

泉委員： ハイリスク、中リスクの治療法に違いはあるのか？

吉田医師： 骨粗しょう症学会が出しているガイドラインに沿って、骨密度から治療法を判断します。

泉委員： かかりつけ医に対して、推奨される治療法等の情報提供はもらえるか？

吉田医師： 整形外科医には当然のことですが、内科の先生にはなかなかという情報ですね…

当院でも、骨粗しょう症外来ができればよいと思う。気楽に患者さんを紹介いただき、その後、薬が決まれば続けて貰うかたちに出来たらと思います。

大居委員： 病院経営の立場から言うと、検診は査定にならないので経営的には非常に良い。当院でも検診を増やしたいと思うが、医師が関わると、本来の業務に差し障りがあったり、医師が時間を割けないために増やせないのが実情。骨粗しょう症検診は、医師が関与しないので、いいやり方だと思った。骨粗しょう症予防の究極の目的は寝たきりにならないこと。筋力、麻痺などの評価も組み合わせて行うのはどうか。

大居委員： 値段の設定は？

前田課長： 近隣、他県の病院の設定も参考にして3,000円としました。
(オブザーバー)

議事⑤「その他」

村下委員： 玉造病院の経営で得た利益は、玉造病院の建替え時の費用に充てることができるのか？

中野部長： 玉造病院が貯めた資金で病院を建替えするのではなく、JCHO 本部が管

理している。JCHO 全体でも、多数の病院が立替時期を迎えているが、厚生労働省が管轄する独法病院としては、赤字経営の病院の建替えは難しい。当院の建替えをするには約 200 億円は必要だと試算されます。その立替費用の 10%にあたる 20 億円の余剰資金が必要であるとされていますが、当院の今の黒字幅では厳しい。また、長期的に返済していく資金の目処がたたない状況では、民間の医療機関が苦勞している中で、法人税を払っていない病院がそういうことに手を出すことについては、本部が難色を示している。とにかく黒字が出せないと話にならないという状況です。

村下委員： 行政としても地域全体の医療提供体制を維持していく上で、玉造病院は重要だと考えている。行政として取り組むべきことがあれば考えていきたい。そのようなことがあれば、是非提起してください。

中野部長： 是非よろしくお願いいたします。